

園長先生の子育てひろば

令和5年 1月



あけましておめでとうございます

園長 山中文

新年あけましておめでとうございます。

本年は卯年です。

毎年、新年には干支にちなんだ絵本をご紹介しますが、うさぎの絵本はご紹介するまでもなく、たくさんありそうですね。ディック・ブルーナの絵本「ミッピーシリーズ」はとても有名ですし、イソップ童話の『うさぎとかめ』などは広い世代に知られているかと思います。『わたしのワンピース』（えとぶんにしまき佳也子、こぐま社）では、うさぎが、つくった服を着ていろいろな場所に行くとその場面ごとに服が変わっていきますね。いろいろに変わっていく面白さに、子どもたちが惹きつけられている様子を見たことも幾度かあります。

そんな中で、『しろいうさぎとくろいうさぎ』（ガース・ウィリアムズぶん・え／まつおかきょうこ やく）を卒園記念絵本としてもらったというお話を聞きました。

この絵本には、しろいうさぎとくろいうさぎが出てきます。二匹は毎日一緒に遊んでいるのですが、くろいうさぎは時々悲しそうな顔をします。心配になったしろいうさぎがたずねると、くろいうさぎはしろいうさぎとずっと一緒にいられますようにとお願いしていたとこたえます。それを知ったしろいうさぎは・・・というようなお話で、結婚式の贈り物にも贈られる絵本だそうです。優しい絵で語られるお話は、子どもの時期よりも、むしろ青春以降で情景が身に染みてわかる絵本であるともいえます。卒園記念ということは、そういう絵本の情景がわかるように成長していきますようにという願いだったのかもしれませんが。

絵本に、子ども時代にストレートに面白さがわかる絵本と、大人になって子ども時代からを通して面白さがわかる絵本とあるように、歌にも子どもがダイレクトに歌って楽しむ歌と、大人が子ども時代をふりかえって情景を味わう歌があります。

たとえば、「うみ」（林柳葉作詞、井上武士作曲）などは、小学校で必ず歌う歌になっていますが、むしろ大人になってから子ども時代を思い浮かべる歌ともいえます。子どもは海を見たら「海は広いな大きいな、月のはのぼるし、日は沈む」などと、ゆっくり海上にのぼる月や海に沈む太陽のことを考えたりするよりも、まっさきに海に向かうことでしょう。むしろ、そのような子ども時代を懐かしく思い出しながら海を見ている大人が口ずさみそうですね。そういう歌はテンポも少しゆっくりになっています。

絵本や歌は、そういった視点からながめても面白いですね。

